

ひきこもり支援の 秋田県モデルを目指して



一般社団法人 秋田ひきこもりラボ

理事長 ヨン キム フォン ロザリン

秋田大学大学院 助教

NPO法人光希屋(家) 代表

秋田ひきこもりラボ（2023年4月13日設立）

ひきこもり、支援へ連携

実態調査やネットワーク構築



県内研究者 一般社団法人を設立

県内のひきこもりの当事者や家族を支援するため、研究者と実業家が一般社団法人「秋田ひきこもりラボ」を立ち上げる。全体的な実態調査、支援団体のネットワークづくりなどに取り組む考え。12日に秋田市の遊学舎で設立総会が開かれ、理事らは「秋田の大きな社会課題であり、対策に力を合わせて」と述べた。（高橋 三子）

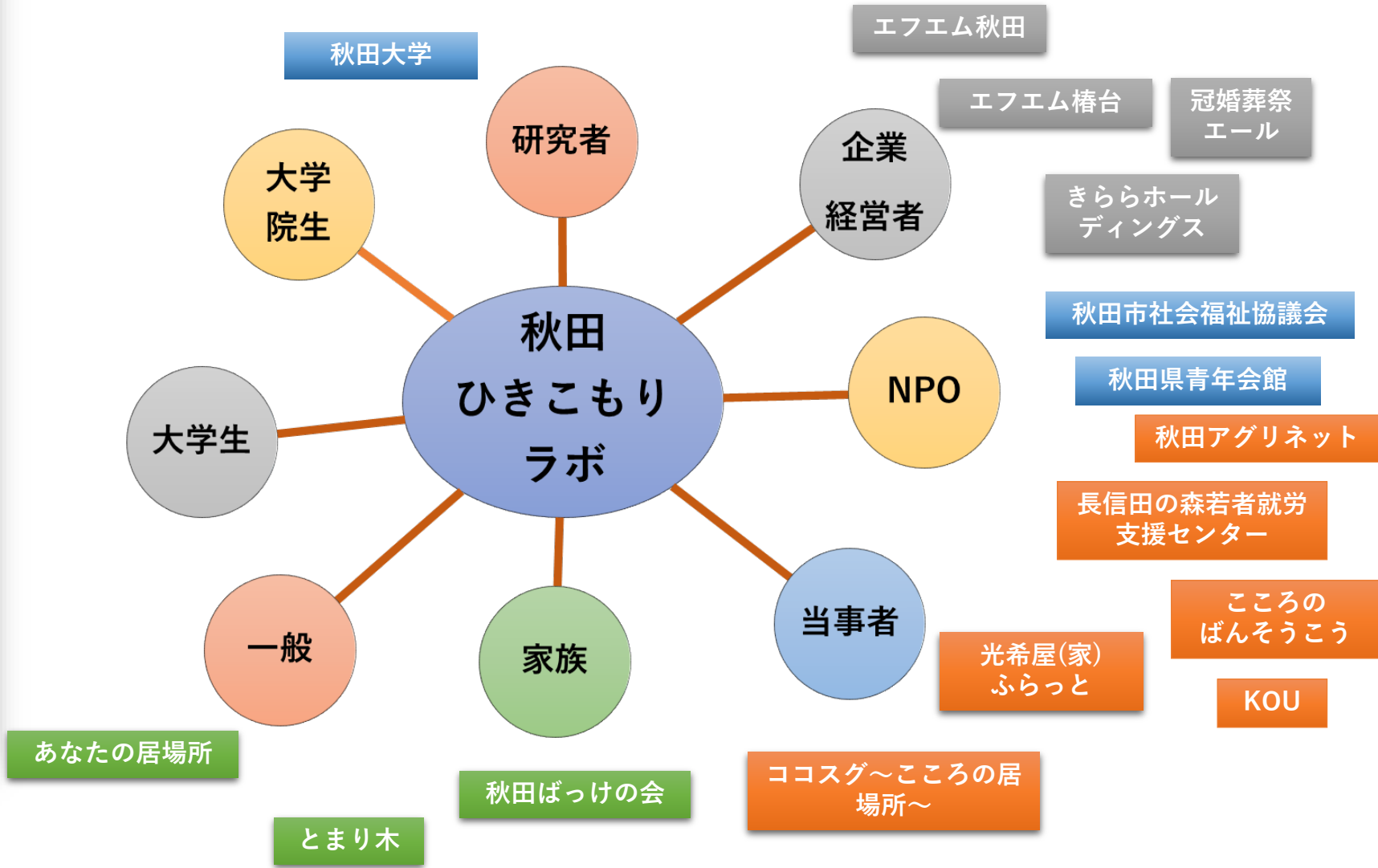
内閣府は3月末、自宅にひきこもる人は、全国で11月の調査で、民生委員で半年以上、家族以外と46万人に上るとの推計を公表。把握しただけで98万人を占めると推定。15～64歳の若年層に占める割合は、男性で約1.5%、女性で約0.9%と推定。ひきこもりの実態調査や支援の必要性が指摘されている。ひきこもりの実態調査や支援の必要性が指摘されている。

「継続的サポート必要」



秋田ひきこもりラボの設立総会では、理事長に就くロザリン・ヨンさんが秋田大学大学院助教授として、当事者や家族の居場所づくり、相談事業に取り組む。正統な大学教育は受けられず、相談事業に取り組む。正統な大学教育は受けられず、相談事業に取り組む。正統な大学教育は受けられず、相談事業に取り組む。

2023年4月13日付秋田魁新報



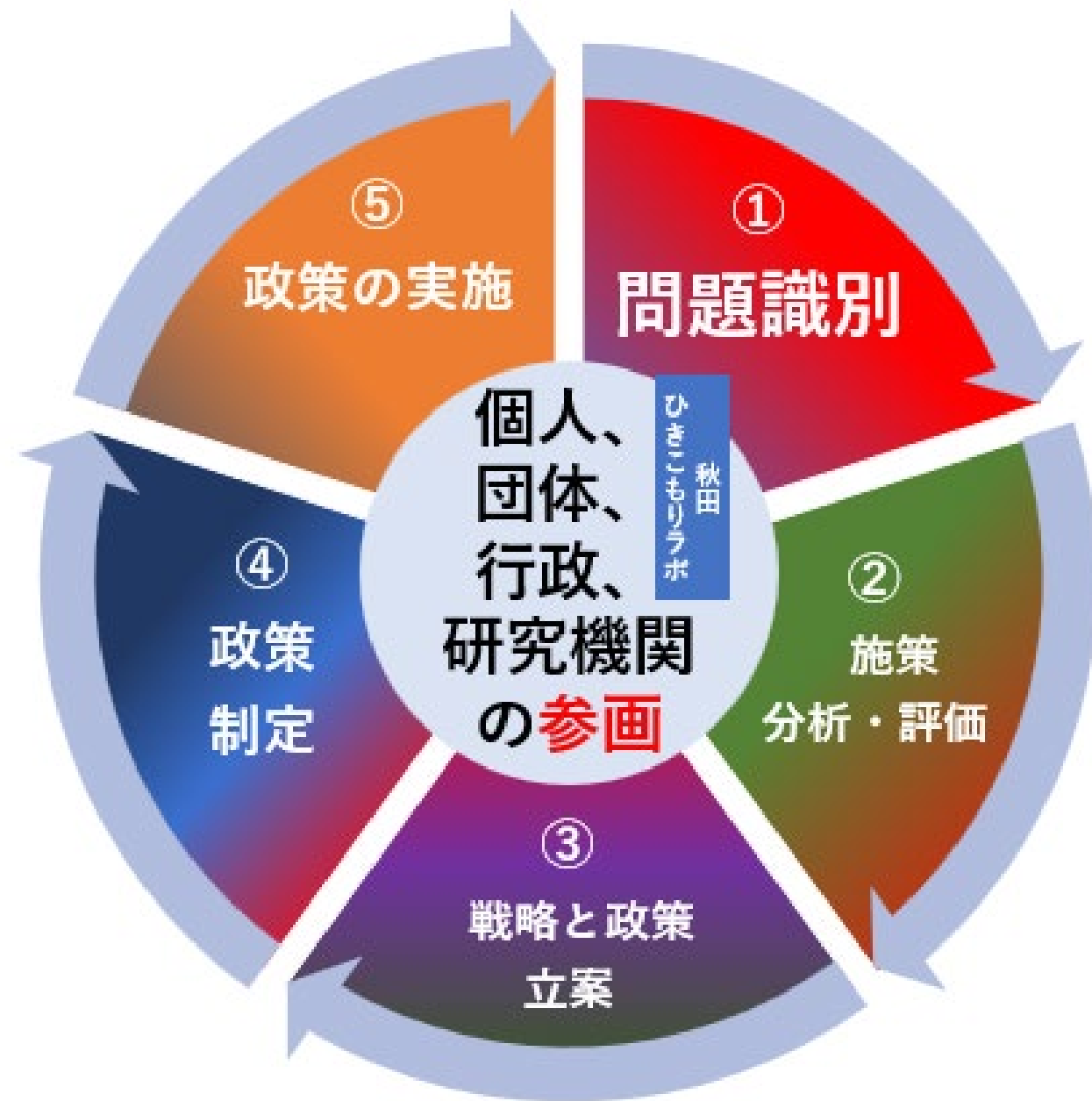
当法人の設立趣旨

ひきこもり支援・対策
にかかわる個人と団体、
行政、研究機関の橋渡し。

問題識別とは？

1. 秋田県は何人がひきこもりの状態にいるのか？
2. どこからどこまでがひきこもりなのか？
3. 当事者は具体的に何を求めているのか？
4. 県民としてできることがあるのか？
5. 政策にできることは何なのか？

を明確にすること



秋田県の「ひきこもり者」は**実際**どれくらい？

- 秋田県**15~64歳**人口(令和4年10月1日現在) **484,454人**
- 秋田県健康福祉部障害福祉課(令和2年) 実態調査 **987人**
- 内閣府ひきこもり実態調査
(平成29年) 1.51% → **7,315人**
(令和5年) 2.04% → **9,882人**
- 秋田県A町健康調査(平成25年) 6.7% → **32,458人**

なぜ秋田県の実態調査は人数が少ない(千人未満)なのか？



「家庭暴力やDVと違って、ひきこもりの問題は出てこない。**個人の問題**とされているから、私たちに相談してくれない。事例報告がないと分からない、守秘義務もあるし、知るのが難しい…」 民生委員A

ひきこもり者は千人弱から**三万人**？

その原因：ひきこもりの定義の曖昧さ！

様々な要因の結果として**社会的参加**（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）**を回避**し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしていてもよい）を指す**現象概念**である。

なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した**非精神病性の現象**とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低いことに留意すべきである。

- 不登校？依存症？就活・就職失敗？家庭環境が問題？精神疾患が原因？人間関係苦手が原因？病気や身体障害が原因？…
- ひきこもり、実際何かが問題なのか？どこからどこまで問題なのか？県民の認識がないと施策がうまくいかない！

さまざまな背景に支援・施策の方向性が異なる

- ▶ 不登校によるひきこもり、その問題は**学力と関係する**のか？
- ▶ 就活・就職失敗ひきこもり、**SSTなどの技能高く**すればひきこもりにならないのか？**就職先**があればひきこもりにならないのか？
- ▶ 依存症によるひきこもり、**依存症を断ち切る**できればひきこもりを治るのか？
- ▶ 家庭環境によるひきこもり、**環境が変わる・親が変わる**と子どもも変わるのか？
- ▶ 精神疾患を伴うひきこもり、その中に**思春期**の問題を混ぜているのか？**薬療法**で治れるか？
- ▶ 病気や身体障害によるひきこもり、病気と障害に**包括的に・優しい地域づくり**でひきこもりにならないのか？
- ▶ 人間関係によるひきこもり、いじめの問題なのか？捉え方なのか？自信の問題なのか？**コミュニケーション能力を高める**とひきこもりを治るのか？

など。

令和5年度の活動

県民講演会の開催

当事者、研究者から
ひきこもり、実態、求める支援、
問題意識の提示、効果的な支援
のあり方を考えるヒントを提供



支援者交流会の開催

ひきこもり支援の民間団体
(活動している・予定)
の相互交流を図り、支援者同士
の情報交換や相互補助の
きっかけづくり



パンフレットの作成

県民に法人の趣旨、活動の周知、
県民ともに参画することを図り、
パンフレットを作成し、
県内各層に配布
(県市町村公的施設・窓口)



県民講演会

10月（予定）



●基調講演

- ひきこもりの**実態**
- ひきこもり支援の**問題点**

●パネルディスカッション

- 研究者
- 当事者
- 家族会

支援者交流会

11月（予定）

- 研究者、民間団体、行政担当者
- **現場**でひきこもり支援の**課題**、**悩み**などについて話し合い、**問題点の特定**、問題解決に向けて議論の場づくり



令和5年度の目標

全県調査の実施を行政に訴えていきます

調査が実現すれば……

- ・ ひきこもり者に対する理解を深める
- ・ ひきこもり者に対する偏見をなくす
- ・ ひきこもり者が声を発しやすい地域づくり
- ・ ひきこもり者の社会参加や就労体験の実現

につながります！

私たちが 目指す事



民間団体や研究機関、行政などがそれぞれの垣根を越えたネットワーク型の支援態勢を構築することで、当事者と家族に寄り添った継続的な伴走型支援を実現するようサポートしたい。

これにより、孤立・孤独に苦しむ若者に、ここ秋田の地で生きる勇氣と希望をもたらす「秋田県モデル」を構築することが大きな目標である。

実効性のあるひきこもり対策は、若者のひきこもり予防、活力がある地域づくり、若年層～中高年層無職者自殺の減少につながります！

会員募集！ぜひ会員になってください！